



移り変わる街並み

戦後80年を迎えて①

今年には戦後80年を迎えます。今年度の「茶ぐわ〜ゆんたく」では、写真を通してこの80年の街やぐらしの移り変わりを紹介します。

写真①は、現在の普天間高校にあったアメリカ軍人向けの新聞社「デイリーオキナワン」(THE DAILY Okinawan)の事務所です。



▲(写真①)デイリーオキナワン社と宜野湾並松 1946(昭和21)年頃

(写真②) リュウキュウマツが残る並松街道跡 ▶ 1946(昭和21)年頃



▲(写真③) 普天間商店街と並松 1956(昭和31)年頃

▼(写真④) 現在の普天間高校前 2025(令和7)年



市立博物館

☎870-9317

戦前、この建物は中頭地方事務所で、戦災を受けずに残った建物をそのまま新聞社屋として使いました。この建物前の大木は、琉球王国時代に植え付けられた「ジノンナンマチ(宜野湾並松)」です。並松は、そのほとんどが戦禍で失われましたが、普天間と真栄原の一部に残っていました。写真②はデイリーオキナワン前に残ったかつての並松街道です。

このデイリーオキナワンには、アメリカ人の



編集長と従業員の他にフィリピン人や沖縄の人も働き、1945(昭和20)年から48(昭和23)年まで英字新聞を発行していました。新聞社の後は、野嵩にあった野嵩高校が移ってきました。並松街道にはその後、商店街が建ち並びました。写真③には商店街の建物の後ろに並松のリュウキュウマツが写っています。この並松は台風や松食い虫の被害、商店街の建設等で姿を消しました。

写真④は現在の様子です。普天間高校前は、普天間飛行場周辺まちづくり事業の一環で、街の整備が始まっています。これから普天間交流施設や山田真山氏が制作した沖縄平和祈念像原型を納めた展示棟の建設、そして宜野湾並松の再現が計画されています。これからも普天間は、新しい門前町として街の発展が期待されます。



博物館からのお知らせ

市立博物館 春の企画展「新収蔵品展 -R5~6受入れ資料-」

令和5・6年度に市立博物館が市民から寄贈を受けた資料を公開します。

- 期間 4/16(水)~6/1(日) ※休館日/毎週火曜日・祝日
- 場所 市立博物館 企画展示室
- 時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
- 料金 無料